

この高さ 12 メートルの滝は峨瀧の滝と呼ばれ、険しくて狭い峨瀧峡から流れることからそのように名付けられた。エメラルド色の滝壺は、中心部の深さが 3～4 メートルある。

峨瀧の滝周辺の森林地帯には、主にイタヤカエデ、スギ、トチノキが生えている。滝の近くには、栗、カエデ、数種類のイチョウがあるが、秋になるとその葉は鮮やかな黄色とオレンジ色になり、水辺に沿って歩道を厚く覆う。いくつかの木に絡みついている蔓は藤である。

峨瀧の滝は何世紀にもわたって訪れる者を魅了してきた。1802 年、この滝が、秋田についての著述で知られる旅行家で博物学者である菅江真澄（1754～1829）の詩の主題となった。近くの石には、31 音節からなる伝統的な和歌の形式をした彼の詩が刻まれている。

ふる雪か	降っている雪か
花かあらぬか	はたまた淡い花か否か
山風に	山風に
さそわれてちる	引き寄せられて、運ばれて、散らばる
滝のしら泡	滝の白い泡

滝の横にある木造の建物は滝ノ沢神社である。1780 年に建てられ、不動明王が祀られている。不動明王は、滝の近くや人里離れた山にしばしば祀られている恐ろしい形相の仏である。

白糸二段の滝と呼ばれる、二段になった二つ目の滝は、峨瀧の滝よりも渓谷の高い場所にある。峨瀧の滝駐車場から高山方面に続く未舗装の道をたどれば滝に行くことができ、そこまでは徒歩 30 分である。